

## ■ 市川市の特性

### 人口

- ・人口は49万人を突破し、現在も微増を続けている
- ・昼夜間人口比率は82.2%(H27)で都心に隣接する住宅都市となっている
- ・2人世帯以下が全体の約7割となっている
- ・若者の人口流入が多く、子育て世代の人口流出が多い
- ・在住外国人数は約18,000人(R1)と、千葉県内3位

### 地理

- ・都心から20km以内に位置している
- ・鉄道:7路線16駅、道路:京葉道路や国道14号、東京外郭環状道路などの道路があり、交通アクセスが良い
- ・北部では梨栽培などの農業が盛んで、屋敷林などの緑も多い
- ・南部ではノリ養殖をはじめとした漁業が行われており、行徳地区には歴史的な街並みが残る
- ・複数の教育機関が存立している(文教都市)

### 歴史・文化

- ・飛鳥時代から平安時代には、下総の国府や下総国分寺や、中山法華経寺を始めとする多くの日蓮宗寺院が建立された
- ・大正から昭和にかけて、北原白秋、永井荷風、幸田露伴などの文人が居住し、多くの作品を残した

### まちづくり

- ・市北部では北千葉道路が、市南部では新たな道路ネットワークの整備が予定されている
- ・本八幡駅北口周辺の再開発、塩浜地区の整備が順次進められている

■ 市川市をとりまく社会情勢

新型  
コロナ  
ウイルス

- 働き方・暮らし方への影響
- 学校教育への影響
- 社会全体のデジタル化への影響

- 保健・医療への影響
- 経済・雇用環境への影響
- グローバル化への影響 …等

+

超高齢社会  
の到来

健康寿命の  
延伸

国土の  
強靱化

地域  
コミュニティ  
の希薄化

SDGs  
の推進

少子化の  
進行

気候変動  
への対応

大規模災害  
への備え

情報通信  
技術の  
進展

…など



新型コロナウイルス感染症をはじめ、現在の様々な社会情勢を踏まえ、市川市がどのように発展していくべきか